

伊東達夫先生 最終講義質疑応答

<ご意見・ご感想>

お話を拝聴し、スミスの言う「同感」能力は、小説などの物語内世界に入り込み登場人物と一体化して生きることのできる人間の能力と密接に関わるのだらうなと思いました。その意味では、経済学も（私の専門である）文学も基盤または出発点は同じだとわかりました。そして、現代の世界に蔓延してしまった「分断」という（新型コロナよりも深刻な）〈疫病〉を乗り越えるために最重要なのはこの「同感」能力であり、それを再起動させることも学校教育の使命だとの示唆を受けました。ありがとうございました

<回答>

ご意見有り難うございます。

最近、メディアなども含めて様々な場面で「共感」という言葉が出て来ます。それだけ社会内部の「分断」が進んでいるという証左ですし、先生のおっしゃるとおり、このような状況を乗り越えるために教育の果たす役割は大きくなっていると痛感いたします。

ひとつ考慮すべきは、共感（同感も同じ意味と考えて差し支えないと思います）とはどういうことか。相手の事情・意見を考慮して、それを受け入れる。あるいは、相手の意見を考慮して、自分の意見を飲ませる（相手に受け入れさせる）。足して2で割ることが可能かどうかです。そのような状況において、どのように対応すべきかが求められているようにも思います。経済行為ならば、中間の値段を取ることもできますが、政治や文学の世界、一般社会での諸問題の場合、2で割ることは多くの場合不可能です。“All or Nothing”の場合もあります。そこに「分断の始まり」の危機があるかもしれません。スミスは事情（情報）に精通した「観察者」を第三者的な存在として胸中におき、それによって判断しますが、18世紀とは比べものにならない情報、価値観などの有り様も含めての考察が求められるようです。ひとりでは生きられない人間社会において、共に存在し、共に感じ、共に苦しみ、仲間意識をもつとはどのようなことなのか。

「共感」の必要性は誰もが認める場所ですが、その根底にひとりの人間としての哲学（考え方、思想など）が求められていることも押さえておかねばなりません。お応えになっているか疑わしいのですが、お許しいただければ幸いです。

<ご意見・ご感想>

伊東達夫先生と上野哲郎先生の最終講義をライブで拝聴いたしました。興味深く、記憶に残るものとなりました。今後の研究と教育の糧とさせていただきます。ありがとうございました。

<回答>

有り難うございます。

混迷の時代に教育の在り方、研究（研究者）の在り方など困難を極めます。4月からは離れますが、実践者として現場に立つ先生方のご苦勞、一言では表せませんが、前向きに取り組むほか道はないようです。先生方の後でいつもエールを送っています。

<ご意見・ご感想 >

伊東達夫先生、上野哲郎先生の講義を直接拝聴できる機会を心待ちにしておりました。経済学部にて在籍していた学生の頃、市場メカニズムに懐疑の念を抱き、現実の社会はどうやって最適にならないところを解決しているのかという点に関心を抱いたのが、現在の自分の研究テーマにつながっています。それゆえ、本日の伊東先生、上野先生のお話を拝聴し、あらためて自分の研究を見つめ直すことができました。感染防止対策のためにオンラインでの聴講となりましたが、懇談の機会が得られる状況になりましたら、大学の運営についてもいろいろお話を拝聴できることを楽しみにしております。お二人の先生の長年にわたるご貢献に深く感謝申し上げますとともに、さらなるご研究の発展とご多幸をお祈り申し上げます。

<回答>

有り難うございます。

先生と同様に、当方も若い頃の問題意識をこの年になっても引き摺っています。大切なことと思いつつも、一方でそこから抜け出せない自分に苛立ちも感じます。今の学生諸君がどれほどの問題意識を持っているか、少々疑問わしいところもありますが、血気盛んな年頃の情熱を大切にしてほしいものです。

機会があればゆっくりと膝を交えたいものです。

<ご質問>

お二人の先生とも、とても素晴らしい最終講義だと思いました。

ありがとうございます。

長い間のご奉職、大変お疲れさまでした。

ご退職おめでとうございます。

Q 伊東先生へ

1 アダムスミスの「見えざる手」の解釈につきまして、「見えざる手」の解釈について、当時の表現と、現代的な解釈の「差」について、自分なりにずっと悩んで考えています。可能であれば、参考文献をいくつかご案内いただければ助かります。何でも構いません。少しずつ考えていきたいと思っています。お手数をおかけいたします。よろしくお願いいたします。

2 伊東先生のご著作につきまして、先生の業績にあった文献で、「現代に問う経済のあり方、経営のあり方」を読ませていただこうと思ったのですが、まだ出版されていないのでしょうか？

<回答>

有り難うございます。興味を持つ方がおられて嬉しいです。

1、「見えざる手」に限らず、物事の解釈は時代や環境によって展開されると考えます。スミスの思想を追求することと同時に、今に生きる自分（我々）にとって、「見えざる手」とは何かも考えねばなりません。研究書（解説本も含めて）は著者それぞれに依りますが、「見えざる手」についての解釈は大きな意味ではそれほど違わないように思えます。以下を参考にしてみてください。どれも有名な研究書です。

・水田洋著『アダム・スミスー自由主義とは何かー』講談社学術文庫、1997年。

- ・堂目卓生著『アダム・スミサー『道徳感情論』と『国富論』の世界―』中公新書、2008年。
- ・ラス・ロバーツ著『スミス先生の道徳の授業―アダム・スミスが経済学よりも伝えたかったこと―』日本経済新聞出版社、2016年。

2, この書物は、経済経営学部創立 55 周年記念論文集で、伊東は「アダム・ファーガソンの市民社会についての一考察」の一文を載せています。出版は3月末頃と聞いていますので、その頃になりましたら、出版元に問い合わせただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。
